

書塾の仲間たち

第 254 回

小松書道会（東京都葛飾区）



●書塾からひとこと●

当教室は先代の石田龍泉会長が、昭和26年に葛飾区新小岩に開設して以来、書写教育を通じて地元への貢献に努めてきました。その中で先代は江戸川区長から文化功績賞を、私自身は文化奨励賞の表彰を受けました。

教室のモットーは「敬愛」です。礼儀正しさから始まる尊敬の念、そして自発性を重んじ、愛情を大事に指導しています。

小中学生のお稽古は一クラス10人前後で指導者が2〜3人つき、懇切丁寧に指導を行っております。コロナ禍以前は時間制限など設けず、フリータイム制をとっていたため、時間帯によって生徒数が変動して指導にムラがありました。現在は人数を限定したことで安定してきました。時間制限内に稽古に取り組むことで以前より集中力が増していることを実感します。生徒の潜在能力には驚くばかりです。

指導は生徒が書いているところをまず観察し、姿勢や筆の使い方、書き順、バランス、払いやはね、止め等が文部科学省学習指導要領に合致しているか確認し、また手を取り一緒に書いて、筆の滑らかな使い方を教えています。教師が朱で添削する際も、良いところを褒めることでよりやる気が出るように的確なアドバイスを心がけて伝えています。

教室への入会にあたり、みなさん毛筆を優先する傾向がありますが、初めに硬筆で字の形と丁寧な書き方を身に付け、お道具の片付けを一人でするようにしてから毛筆を併修していきます。

高校・一般部ではそれぞれ目的を聞き、学習から段級位の取得、書道展への出品指導なども行い、毎年優秀な成績を収めています。会長の専門は隷書ですが、弟子たちの作品は楷書・行書・調和体他とバラエティに富んでいます。各々の個性を活かした指導を心がけています。今後も書写から芸術書道まで幅広く学べる教場として、地域に根差し必要とされる場でありたいと願ってやみません。

小松書道会 石田 壽扇

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



他の人たちの作品を参考にしています

長野県松本市立並柳小学校五年 橋本 莉央

私が書道始めたきっかけは、小学校に入った時、先生たちに、私の書いた字が上手とほめられて、うれしく思ったからです。そして二年生の時に、「もっときれいな字を書きたい」と思って、母に頼んで習字教室に通い始めました。

教室に通い始めたころは、筆をはじめとした、いろいろな書道用具の使い方を知りませんでしたし、毎回の片付けもとても大変だと思っていました。それでも、教室で先生がていねいに指導してくれたので、だんだん上手にできるようになりました。きれいな字を書けると、とても気持ちよい気分になります。

学校で行われる書道展では、一年生から四年生まで、毎年賞をいただくことができていますので、これから六年生まで、続けて受賞できるようにもつとがんばりたいと思います。そのために、習字教室以外でも自主的に練習に取り組み、月刊「書写書道」に掲載されている他の人たちの作品を見て自分が書くときの参考にしようと思います。練習を続けていって、さらに上手になった自分を想像すると、とてもわくわくします。

楽しく、気持ちよくきれいに書いた字は、自分だけではなく他の人を気持ちよくすることもあると思います。これからも、あきらめずに、コツコツがんばっていきます。

私と書写書道 第254回



自分の字が成長してゆく楽しさ

長野県松本市立信明中学校二年 高橋 飛和

私は小学校三年生の時に書写書道教室に通い始めました。それまで私は、学校から持ち帰る授業のプリントや生活記録の自分の字がきれいではなく、自分でも読めないときがありました。私自身はあまり気にしていませんでしたが、母に書道教室に通うことをすすめられて、初めはなんとなく通っていました。教室の先生が書くときのコツを詳しくわかりやすく教えてくださるので、やがて書いているうちに硬筆、毛筆ともに少しずつ自分の字が変わり、成長するよう感じられ、だんだん書道が楽しくなってきました。

私は左利きなので、習い始めは右手で筆を持つこともままならず、大変でした。まず基本の線をきれいに書くという目標を立て、何度も何度も練習しました。そのうち、学校で字を褒められることが増え、書道始めたときに比べて、自分の字に少し自信を持てるようになりました。いつも先生にはたくさん褒めていただき、とてもやる気や向上心に繋がっています。ここまで続けることができたのは、先生や両親のおかげです。日々の心強いサポートに、感謝の気持ちでいっぱいです。

中学生になり、勉強と部活との両立は大変ですが、五年間続けてきた書道に誇りを持ち、自分らしく美しい字が書けるようにこれからも日々の練習に励んでいこうと思います。